

京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>


カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

昨年教区で実施したシノドスアンケートの回答を通して、たくさんの方々、ともに歩む姿、歩もうとする思いに触れさせていただきました。そしてその中であつた「花や草、虫たちも、ともに歩む友達です」という声には、人だけで歩んでいるのではなく、すべての被造物も、ともに歩んでいるということに改めて気づかせていただきました。

6月下旬、梅雨の晴れ間に、兵庫県のあるお寺を訪れました。その敷地の一角には池があり、ここにたくさんのカメがいました。間近にカメを見ることができたので興味深く眺めていると、老齢のカメと目が合いました。その顔をじっと見て気づいたのですが、目と鼻と口の配置が人間とそっくりなのです。ビックリしました。(後から調べたら、耳もちゃんと口の横にあるそうです)。カメとわたしが同じ顔をしている。しばらく自分の中で驚きと不思議と、妙な気分が入り混じっていました。がああ同じ創造主によって創られたのだ、と思うと大きな親しみの気持ちが湧いてきました。「わたしたち、同じ神さまに創られたんだね」と心の中でカメに声を掛けて、嬉しく思いながら帰りました。

第8回 カメもわたしも

2023年 司教年頭書簡
 「コロナ時代を生きる信仰」
 「わたしのシノダリティを創ろう」
 を受けて



「獣に尋ねるがよい、
 教えてくれるだろう。
 空の鳥もあなたに告
 げるだろう。
 大地に問いかけてみ
 よ、教えてくれるだ
 ろう。」



海の魚もあなたに語るだろう。
 彼らはみな知っている。
 主の御手がすべてを
 造られたことを」
 (ヨブ記12・7-9)。
 もしかしたら、カメ
 が私に創造主への思いを起こさせてくれたのかも
 知れません。

この小さな体験に、数年前の教区の研修会で、講師の方がレイチェル・カーソンの本から語られた言葉を思い出しました。「福音は『センス・オブ・ワンダー』という心の動き(当惑、驚き、不思議、感動)とともにやってくる」。聖霊の働きによって互いのうちにおられる神に触れるとき、驚きや感動を覚えます。その驚きや感動を心を開いてともに分かち合い、ともに主を喜びほめたたえること、これが私にとってのシノダリティ、ともに歩む道です。

京都教区シノドスへの回答集計担当
 福音宣教企画室 桑野麻子

司教年頭書簡は
 こちらから↓



9
 2023



こんにちは神父さん



グエン・バン・ナン神父

所属：クラレチアン
宣教会

生年：1979年

叙階：2019年

クラレチアン会のステファノ・グエン・バン・ナンです。ベトナムで8人きょうだいのカトリック家族に生まれました。

2019年7月16日に、皆さんの祈りに支えられて、司祭に叙階されました。本当に心から感謝いたします。宣教師にとって、一番嬉しいことは、使命のために他の国に派遣されることです。神様のあふれる愛によって、当時クラレチアン会の総長だったヨゼフ・アベイヤ司教様は、まだ神学生の私を選び、日本に送ってくださいました。私にとって日本は、世界で一番きれいで治安のよい国です。また、日本の方はとても優しいですので、日本に派遣され、私は本当に嬉しかったです。

しかし、それからの私にとっての大問題は、日本語がとても難しいことでした。実は数か月日本語を勉強した後、髪がたくさん白くなりましたが、なかなか上手になりませんでした。このため、日本への召命を一時は諦めかけました。フィリピン管区に戻るかどうかを考えていた時、私の心にみ言葉が浮かびました。「イエスについて来たいものは自分を捨て、日々、自分の十字架を背負ってイエスに従いなさい」。このみ言葉を通して、自分の楽しいこと、楽なことのためではなく、皆さまの幸せを探すために日本に来たのだと思いました。そして、皆さまへの愛情から苦しむことが、私の喜びになると思いました。

今回派遣された洛東ブロックでは、日本人にもベトナム人にも仕えることができ、とても嬉しく、感謝の気持ちで一杯です。



シノドス第16回通常総会 第1会期討議要綱発表

今秋、バチカンで開催される世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会・第1会期（2023年10月4日～29日）に向け、討議要綱が発表された。

「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」をテーマにした今回のシノドスの特徴は、2021年、教区レベルでの分かち合いと意見交換から始まり、2022年、大陸レベルでの総会と作業を経て、2023年と2024年の2会期に分けたバチカンでの総会議に至るまで、大きな「一つの歩み」として行われていることにある。

このたび提示された討議要綱は、いよいよローマで2023年10月に開催される総会議の第1会期のためのもの。

6月20日、シノドス事務局から発表されたこの要綱は、大きく分けて、「序文」と討議の指針となるテーマを示す「A・B」の2つのセクションからなる。

序文では、このシノドスの歩みを振り返りながら、今回の討議要綱を、地方教会でのプロセス（教区レベル・大陸レベル）を完了し、その実りを生かしながら総会へと至るための「道具」として示している。

（次ページ下段に続く）

小教区評議会役員研修会

「社会への福音宣教」

〜滞日外国人から学ぶ〜

6月24日(土) オンラインにて開催

今年度の小教区評議会役員研修会は、「社会への福音宣教〜滞日外国人から学ぶ〜」というテーマで行われました。外国人信徒の多い地域で司牧される司祭とシスター5名による座談会形式で、それぞれ司牧への熱意を感じさせるお話でした。

参加された、特に外国人が比較的少ない小教区役員にとっては、少なくとも外国人信徒の様々な現状を知る、よい機会になったのではないかと思います。

教会には、日本語だけではなく、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語等のさまざまな言語を母国語としている人々が集まります。それぞれの人々のために、スケジュールを立て、ミサや入門講座等を行い、いろいろな工夫をこらす司牧活動が行われています。その分かち合いから、宣教は、司牧者が、あるいは信徒一人ひとりが、まず出会う人々、関わる人々に心を配ることから始まるのだと感じました。

職場や家庭、地域社会で、外国人といることだけではないいろいろな苦労や不安を抱える人々にとって、神と教会共同体とのつながり、祈りや信仰が、何よりの精神

的支えになっていくことにも共感できました。そして、生き生きと信仰を表明する彼らのあり方は、多くの日本人信徒には刺激的で、国民性や文化の違いを感じさせるものだと思います。キリスト者であることを堂々と宣言し、信仰生活を自然に優先できる外国人信徒から、自分も置かれた場所で、できる方法で、信仰を素直に分ち合う姿勢に倣いたいと思えたのではないのでしょうか。

異なる立場に置かれた人々の状況を聴き、学ぶとすることは、お互いの文化や生活には様々な背景があることに気づき、理解し合うきっかけになります。一つの大きな共同体に、少しでもインターカルチュラルな教会(異文化間交流できる教会)に成長していきたいという願いが深まる機会にもなったと思います。

座談会に参加された方々のお話から、様々な課題があり、一つの方向性を定めたり、理想どおりに物事を進めたりすることはとても難しいと実感しています。なかなかまとまらない現状を通して、多様性を受け入れるということを学んでいるようにも感じました。

報告 福音宣教企画室

*座談会での出席者のお話の要約は、ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



評議の指針を示す2つのセクションでは、

まず、A「共に歩む教会のために。一つの統合的体験を大きなテーマに、

A1「共に歩む教会の特徴的なしるし」

A2「共に歩む教会を進める方法・聖霊における会話」

という2つの中テーマが提示される。また、B「交わり、宣教、参加。共に歩む教会のための3つの優先課題」をもう一つの大きなテーマとするセクションでは、

B1「輝く交わり。神との交わり、人類の一致のより豊かなしるし・道具となるためには」

B2「宣教の共同責任者。福音への奉仕のためにいかに賜物と課題を分かち合うか」

B3「参加、責任と権威の役割。共に歩む宣教的教会におけるプロセス、構造、制度」という3つの中テーマが挙げられる。

さらにA・Bの各セクションには、これらのマクロなテーマを深めるための、多数の具体的視点が、小テーマとして記されている。

(2023年6月20日)

バチカンニュースより)



青年のための黙想会

テーマ「聖霊」 7月8日(土) 開催

教区信仰教育委員会主催、「青年のための黙想会」は、以前には1泊2日で年1〜2回行っていました。今年度は、さらに半日黙想会を年2回増やすことで、仕事や学業で忙しい青年たちが、一人でも多く黙想会に参加できるようにとの思いで企画しています。青年のみならず、ぜひ、黙想会に参加してください。また小教区の教育部の方々、青年たちへのご支援をお願いいたします。

さて、今年度、第2回目の半日黙想会が小立花忠神父の指導で行われ、6名の青年たちが参加しました。

今回の会場、聖ドミニコ女子修道会京都修道院は、明治時代の実業家で文化人である藤田伝三郎男爵の元別邸です。新緑が輝く静かな梅雨の午後、重厚な和風建築と美しい日本庭園がある鴨川畔の修道院で、青年たちはゆっくり、深い黙想をしました。

集合後、参加者はまず聖堂で各々静かに祈り、黙想会は始まりました。講話では、小立花神父が「祈りとは？」について語られ、「黙想的な祈り」と「観想的な祈り」、とくに「観想的な祈り」がど

ういう祈りか、また、「祈り方」を学びました。「聖霊」については、聖書の「聖霊」について書かれた箇所を読みながら、「聖霊とは何か？」を黙想し、私たちは聖霊の導きによって生きていて、よりよく生きるために聖霊のはたらきがあることを思い起こしました。また、「聖霊と祈り」はセットであるとの小立花神父のお話により、「聖霊の交わり」によって私たちがいつも導かれていること、また神との対話によって、聖霊を知り、感じる事ができることを確認しました。

ミサの後、ティータイムで楽しくリラックスした時間を過ごしました。小立花神父から、「自分に合った黙想の方法を見つけるとよい」等のお話がありました。

忙しく、慌ただしい生活の中で、日常から少し離れて、静かに祈ることの心地よさを体験した黙想会でした。

報告 信仰教育委員会

「青年のための黙想会」次回の予定

日時・10月7日(土)〜8日(日)

指導・菅原友明神父

テーマ・「神はわたしに何を望むのかII」

場所・望洋庵



トマのしげやき 最終回

われをあわれみのみもとに
行かせてください

われは弱く

罪深きものなれば

れいこんを御手に委ね

をのれを無とし

あわれみ深い御手に

わが身を委ねまつる

見捨て給うな わが神よ

わが主よ わが救い主よ

いつくしみ深い神のまなざし

つみに悩み

くるしみをしのんでいるわれをみて

心ふるわせる主よ

あなたの愛は美しい

その美しさを

しづかに いま 味わっている

村上透磨

2月18日に帰天された村上透磨神父は、病院のベッドの上で、「トマのしげやき」の原稿を書いてくださったいました。これが最後の遺稿です。

広報委員会



大塚司教様の霊名のお祝いに参加しました！

6月25日に望洋庵にて大塚司教様の霊名のお祝いがあり、青年センターに関わっている青年も参加しました。

去年は司教叙階25周年ということで、望洋庵と青年センターが合同で大塚司教様の銀祝をお祝いしましたが、オンラインでの開催でした。

司教叙階されて26周年の今年は、対面で食事ありのパーティーという形でしたので、参加された皆様がそれぞれ自由にお喋りを楽しんでおられたという印象でした。司教様も参加者一人ひとりと会話を楽しんでおられたようで、とても良い集いだと思います。遠くにお住まいの方、小さなお子様をお連れの方、そしてチェジュ教区から来られた神父様も参加されていました。世代や教区の垣根を超えて、皆で霊名のお祝いができたのが良かったです。

司教様、あらためましておめでとうございます！ これからも今までと変わらず、京都教区の青年達の活動をあたたかく見守っていただけると嬉しいです。

運営委員／西院教会 栗井 幹



京都カトリック青年センター



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターは、教区を越える青少年活動について、京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、青年の各誌活動をバックアップするための機関です。

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のQRコードからも確認できます。



お知らせ

教 区

信仰教育委員会

青年のための黙想会

日 時：10月7日㊦ 17:00～8日㊦ 16:00
場 所：望洋庵(西陣教会内)
講 師：菅原 友明神父(京都司教区)
テーマ：「神はわたしに何を望むのかⅡ」
対 象：青年(18歳～35歳 高校生参加不可)
問合せ：メールまたはFAX
メール/shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp
Fax/075-366-6679

案内・申込方法は各小教区あて、一斉メールにて配信済

聖書委員会

オンライン聖書講座

ともに歩んでくださる神
—シノダリティの心をもとめて—
第7回「神のいのちのみことばを通して」
9月7日から3か月配信
講師：北村 善朗神父(京都司教区)
第8回「エウカリスチア(聖体)を通して」
9月21日から3か月配信
講師：大塚 乾隆神父
(京都司教区)

要申込、有料
QRコードより詳細をご覧ください



広報委員会

Fax：075-366-6679
メール：honbu@kyoto.catholic.jp
教区時報11月号の原稿締切日は9月25日㊦です。

大阪教会管区

部落差別人権活動センター

シンポジウム

「狭山事件 冤罪を生む日本の社会構造」
日時：9月18日㊦㊧ 14:00～17:00
場所：大阪梅田教会(サクラファミリア)
シンポジスト：
黒川みどりさん(静岡大学教授)
安田聡さん(狭山事件再審弁護団事務局)
申込不要・無料
問合せ：075-366-6609

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

聖歌練習 9月10日㊦ 14:00
23日㊦ 17:30 18:30 ミサ奉仕
場 所：河原町教会聖堂
問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：9月14日㊦ 10:00 28日㊦ 10:00
河原町教会 2階楽廊

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：9月19日㊦ 13:00～15:00
場 所：希望の家地域福祉センター
京都市南区東九条東岩本町31-10
問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)
KBS京都 ㊦～㊧ 朝5:55
㊨ 朝5:15
ラジオ関西 ㊦～㊧ 朝5:00
㊨ 朝6:05
毎日放送 ㊦～㊧ 朝5:45
㊨ 朝4:55
9月のテーマ「輝く」



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。
Tel・Fax/072-722-0271